

令和2年2月25日

厚生労働省
医政局看護課長 様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会
会長 岸 恵美子

第106回 保健師国家試験の出題内容について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動の特段のご理解ご協力を賜り、感謝しております。

さて、2月14日に行われました第106回保健師国家試験について、当協議会会員校から寄せられた意見を集約し検討しましたので、別紙のとおり、資料1と資料2と合わせてお届けいたします。

是非、ご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

別紙 1

I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
午前：4	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と3が正答である。 ＜理由＞選択肢2は地域共生社会・生活の異常の早期察知の観点から正答。選択肢3は早期受診の観点から正答。
午前：6	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢1と4が正答である。 ＜理由＞選択肢1は、2010年9人から2018年まで303人に増加。選択肢4は、2010年8420人から途中増減はあるが、2018年9128人に増加している。
午前：11	正答が複数ある	選択肢1と3との優先度を判断できない。 ＜理由＞設定の情報だけでは、想定する地域（人口規模、地域の特性）の状況により判断が異なる。実習の経験などから判断が異なる。
午前：33	正答が複数ある	正答が3つある。選択肢1と2と5が正答である。 ＜理由＞選択肢1は乳児全戸訪問事業、保育所入所、障害児を対象とする児童デイサービス等。選択肢2は未熟児療育医療、未熟児の訪問指導。選択肢5は、補装具支給制度。
午前：39	正答が複数ある	正答が3つある。選択肢1と5だけでなく、3も正答。 ＜理由＞被保護人員は、2015年2,163,685人、2016年2,145,438人、2017年2,124,631人と減少している。
午後：25	正答がない	「発展過程」の捉え方で判断が異なり回答が得られない。 ＜理由＞地域ケアシステムの発展過程で「第1段階」を用いている教科書は限られている。既存の活動をベースに発展させる過程か、既存の活動を含め一から作ることを考えるかにより判断が異なる。 ＜参考＞第93回保健師国家試験で午前39に同様の問題が出題されたときは採点除外となっており、同様の理由であったと考えられる。

II その他改善を要する問題

問題番号	理由	コメント
午前：10	難易度に疑問	保健師国家試験問題としての出題意図に疑問。看護師の基礎知識で解答できる。
午前：17	設問の改善が必要	市の保健センターで、「発達障害児」（診断がついた児）の子育て教室を行うことは実情にそぐわない。
午前：44	選択肢の改善必要	選択肢1・4は適切と考え難い。回答が容易である。
午前：54	難易度に疑問	保健師としての専門的知識がなくても、表から容易に回答が導き出せる。
午後：9	設問の改善が必要	「障害福祉サービス」は広義と狭義がある。狭義では「地域活動支援センター」は含まれず正答には混乱を生じる。
午後：18	選択肢の改善必要	義務教育レベルの知識で解ける問題であり簡単すぎる。
午後：42	選択肢の改善必要	選択肢1・3は適切と考え難い。回答が容易である。
午後：54	設問の改善が必要	教室に戻らないときに、母親に迎えに来てもらうという状況設定に違和感がある。「母親」という表現ではなく、「保護者」が望ましい。

III 全体について

1. 全体的に難易度が低い傾向にあった。

タキソノミーレベル分類の結果、2群に大別した場合は、タキソノミーⅠとⅠ'の出題は68問(61.8%)、タキソノミーⅡとⅢの出題は41問(37.3%)であり、昨年第105回とほぼ同率であったが、4つのレベル別では、タキソノミーⅠの出題が昨年より12問増の54問(49.1%)であり全体の半数近くを占めていた(別紙1及び別紙2表のとおり)。

2. 状況設定問題の難易度について

1) タキソノミーⅠの出題が多い

状況設定問題35問のタキソノミーレベルは、タキソノミーⅠの出題は7問(20.0%)、タキソノミーⅠ'は2問(5.7%)、タキソノミーⅡは20問(57.1%)、タキソノミーⅢは5問(14.3%)であり、タキソノミーレベルの高い問題が少なかった。

2) 状況設定文を使わなくても正答を判断できる問題

状況設定文を使わなくても解答できると考える問題として、午前では、問42・問43・問53・問54・問55、午後では、問41・問43・問44・問47が該当し、難易度が低くなっていた。また、短い状況を付記した一般問題(午前24)でも同様であった。

以上